

第3章 産業がいきいきと活発なまち

- 1 農林業の振興
- 2 工業の振興
- 3 商業・サービス産業の振興
- 4 観光の振興

市民・事業者・行政の責務

市民の責務

市民は、大井川が育んだ地域産業や特産品に愛着を持ち、これらの地域資源を最大限活用するとともに、来訪する国内外の人に対して、おもてなしの意識で接します。また、島田市の魅力について積極的に情報発信します。

事業者の責務

事業者は、地域の活気と活力を高めるため、積極的に活動するとともに、その社会的責任や役割を果たします。

行政の責務

行政は、市民の豊かな暮らしを支えるため、産業基盤の整備や支援活動に取り組みます。

みんなでめざそう値（目標指標）

指標名 (指標の定義)	現状値	中間目標 H25	最終目標 H30
農業就業人口 (農林業センサスによる自営農業に主として 従事した世帯員数の推計値)	(H17) 5,337人	5,000人	4,600人
農業産出額 (静岡県生産農業所得統計による農業生産額 の推計額)、()内は茶(生葉、荒茶)産出額	(H18) 111.6億円 (76.9億円)	113億円 (78億円)	115億円 (80億円)
農業就業人口一人当たり農業産出額 (農業産出額/農業就業人口)、()内は農業就 業人口一人当たり茶(生葉、荒茶)産出額	(H18) 209万円 (144万円)	226万円 (156万円)	250万円 (174万円)
認定農業者数 (農業経営改善計画認定者数)、()内は認定農 業者割合(農業経営改善計画認定者数/農業 就業人口)	402経営体 (7.5%)	425経営体 (8.5%)	450経営体 (9.8%)
森林間伐面積	75ha	100ha	125ha
従業員一人当たり製造品出荷額 (工業統計調査での従業員一人当たり 製造品出荷額等/年)	(H18) 2,734万円	2,770万円	2,860万円
一業者当たり年間商品販売額(卸・小売 業) (商業統計調査)	万円 1億2,819	万円 1億2,830	万円 1億2,860
観光交流人口 (静岡県観光動向調査)	260万人	280万人	300万人

3 - 1 農林業の振興

施策の目的

将来にわたって、地域の基幹作物である茶をはじめとして、地域で生産される農林産物や木材が安定的に供給・消費されるようにするため、地域農林業の持続的な発展を目指します。また、国土保全、自然環境保全、水源かん養、景観形成等の多面的な機能を持つ農地、森林の保全や活用に努める中で、中山間地域の振興を目指します。

現状と課題

本市の農業は、茶の生産をはじめとし、様々な農産物が生産され、その生産基盤強化のため、土地基盤整備事業や生産施設整備事業を行ってきましたが、高齢化や後継者不足による農業従事者の減少、産地間競争や輸入農産物との競合、消費・販売価格の低迷等により、農業を取り巻く環境は厳しさが増えています。また、一部の農地については、担い手不足により、遊休農地化が進むとともに、中山間地域の一部の集落については、地域コミュニティの維持が困難な状況になっています。

一方では、食の安全・安心への意識の高まりを踏まえ、地元の農林産物を地元で消費する地産地消活動や食育活動が推進されるとともに、都市住民との交流促進、環境保全型農業等の推進が求められ、農業や農山村の持つ多面的な機能など、社会的な期待や役割が高まっています。

このため、地域農業の担い手として、認定農業者、女性農業者、法人化(ビジネス経営体)、新規就農者等の支援を行い、その確保に努めるとともに、農地の流動化、集積による農地の効率的な利用、農林産品のブランド化の推進などにより、経営基盤の安定化に努めることが必要です。

また、本市の林業は、川根地域を中心に優良な大井川産材の産地であるため、計画的な植林、間伐などの森林整備や基盤整備を行ってきました。しかし、高齢化や後継者不足による林業従事者の減少、輸入材との競合による木材価格の低迷など、林業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、林業生産活動が停滞し、森林の荒廃が進んでいます。

森林は、地球温暖化防止、国土保全、自然環境保全、水源かん養、景観形成等の多面的な機能を持っていることから、今後も、これらの機能を持続させるためには、森林と市民の関わりを深め、森林を管理する者と市民が協働した森づくりを進める必要があります。

施策の方向

(農業)

1 地域農業の振興

地域農業の振興を図るため、茶、レタス、施設園芸農産物等の生産を推進し、地域の特性を活かした生産性の高い農業を育成します。

基幹作物である茶の産地化を一層促進し、品質向上、消費拡大を図るとともに、バラをはじめとする花き栽培農家の育成を図ります。

2 茶業の経営体質の強化（重点プロジェクト関連）

茶園の区画整理等による土地基盤整備を推進するとともに、茶改植の推進による品質と生産性の向上、品種茶の普及、機械化対応茶園の整備を図ります。また、茶工場の再編等により、生産性の高い機械・施設の導入を図るとともに、経営の法人化を進め、経営体質の強化を図ります。さらに、中山間地域においては、当地域の自然条件等の特性を活かした個性的な経営体の育成を図ります。

3 茶の消費拡大（重点プロジェクト関連）

地域で生産される島田茶、金谷茶、川根茶の特徴やお茶の郷等の機能を活かしながら、茶のまちとしてのブランド化を推進するとともに、産地の特性を活かした新たな商品開発を図り、富士山静岡空港の活用等により、国内外へのPRと消費拡大に努めます。

4 企業経営を展開するビジネス経営体の育成支援

持続可能で企業的な農業経営を確立するため、法人化の支援、ICTの活用支援、ビジネス経営体の育成を推進するとともに、新規就農者、青年農業士、女性農業者等を育成し、支援します。また、農地の流動化による担い手への農地集積、制度資金による低利融資の活用、経営相談・法人化支援の充実等の担い手育成事業を推進し、認定農業者等の支援に努めます。

5 生産基盤整備の推進

農道の整備、園地の区画の拡大、畑地かんがい等の土地改良事業の推進や省力化機械・施設の導入により、生産性が高く、高品質な農産物の生産を可能とする生産基盤の整備を推進します。また、維持管理の省力化や管理費用の削減にも配慮した生産施設整備を推進します。

6 ブランド化の推進（重点プロジェクト関連）

農林産物の生産、製造・加工、流通及び消費における連携を強化するとともに、商業、工業等との異業種連携を強化する中で、地域に特有用な新商品開発やブランド化等を推進します。また、農業祭等の地場農産物に関する啓発イベントの開催や観光・食文化を活かした農産物の魅力を発信することにより、消費者に支持される産地ブランドの育成を支援し、国内外への販路拡大を推進します。

7 地産地消の推進（重点プロジェクト関連）

地域の地産地消活動を推進するため、島田市地産地消推進計画に基づき、朝市団体等の連携に努めるとともに、生産者と消費者の交流による消費者ニーズの把握や生産への反映に努めます。また、児童・生徒への食農教育や食育活動等の推進により、安全・安心な地場農林産物に対する理解を深めるとともに、直売所や量販店等での販売、学校給食や飲食店での利用等により、地場農林産物の活用を促進します。

8 農山村における交流人口の増加と定住の推進（重点プロジェクト関連）

農林業に対する理解を深め、健康でゆとりある生活に資するとともに、地域の魅力を発信する中で、交流人口増加や定住化による中山間地域の総合的な振興を図るため、中山間地域等の地域資源を活用した農林業体験やグリーンツーリズム等の交流事業を促進します。

9 農地保全と都市化との調整

地域における農地保全活動や農地流動化事業を推進するとともに、中山間地域等直接支払制度の活用推進や市民農園の開設等を支援し、遊休農地解消計画に沿った対策を進めます。また、国土保全、自然環境保全、水源のかん養、景観形成等における多面的な機能を有する農地については、都市的土地利用との調整を行う中で、農業振興地域の整備に関する法律、農地法等による適正な保全・管理を進めるとともに、その活用に努めます。

10 安全・安心な農林産物の生産と環境保全型農業の確立

安全・安心な農林産物の生産のため、適正な防除と施肥管理等を行うとともに、生産履歴管理を含めた農産物の生産工程を適切に管理するGAP(農業生産工程管理手法)等の取組を推進します。また、リサイクルの推進やバイオマスの利用促進など、環境負荷の少ない農業への転換を促進し、持続性の高い環境保全型農業を推進します。

協働のまちづくり（農業）

地産地消推進事業、農林業体験等を促進し、市民と農業・農作物とのかかわりを深める中で、市民と農業者等が協働し、市民生活の基本となる安全・安心な食の確保に努めるとともに、健康的で豊かなライフスタイルの提案に努めます。また、市民活動団体の自発的な活動を支援する中で、市民と協働した農業の振興を図ります。

（林業）

11 生産性の高い林業の実現（重点プロジェクト関連）

小規模で分散する森林所有者の森林の団地化、施業の受委託を促進するとともに、低コスト林業等に取り組む事業体を支援します。

また、必要な林道・作業道等の基盤整備や高性能林業機械の整備の促進について、森林施業と一体的な実施を図ります。

さらに、環境に配慮した林業の実施のため、持続可能な森林システムの構築を目指す森林技術者を育成し、確保します。

12 消費動向を踏まえた大井川産材の安定供給（重点プロジェクト関連）

良質な大井川産材を利用した住宅建築を推進し、その普及に努めます。

また、公共事業等において、市が率先して大井川産材の利用推進を図るとともに、市民や市内事業所等の主体的な取組を支援します。

13 森林の保全（重点プロジェクト関連）

森林については、優良材の生産基盤、林産物の供給だけでなく、地球温暖化防止、国土や自然環境の保全、水源かん養、リクリエーションの場の提供等の多面的な機能を持つため、森林法等による適切な保全・管理を推進するとともに、間伐事業や林道、作業道整備、放置竹林対策等を促進し、その活用に努めます。

14 鳥獣被害対策の推進

農林産物に被害を与える野生鳥獣について、被害実態調査を基にした鳥獣被害防止計画を策定し、それに基づいた被害防止の取組を推進します。

協働のまちづくり（林業）

市民と森林・林業のかかわりを深め、市民と森林管理者が協働した森づくりを進める中で、市民の大切な財産であり、多面的な機能を持つ森林の保全に努めます。また、市民活動団体などの自発的な活動を支援する中で、市民との協働により中山間地域の総合的な振興を図ります。

3 - 2 工業の振興

施策の目的

製造業等の健全な発展を期し、一層の生産性の向上を目指します。また、若者から高齢者までいきいきと働くことができる魅力ある雇用の場の確保を目指します。

現状と課題

本市は、東海道の宿場町として、また、大井川産の木材を中心とした製材、木製品の生産地、茶等の物産の集積地として発展してきました。また、現在では豊かな水資源及び交通アクセスの良さから工場進出も進み、紙・パルプ、機械、医薬品、食料等の工場が操業しています。

その一方で、経済のグローバル化や資源の高騰など工業を取り巻く環境は一段と厳しさを増しており、今後も活力ある産業振興を図るためには、既存産業との連携強化や新産業の創出を図り、企業誘致を促進するための基盤整備を進めていく必要があります。

また、富士山静岡空港、新東名高速道路により、空と陸の交通アクセスが大幅に向上し、国内はもとより、海外へとつながる交通拠点として、新たなビジネスチャンスを最大限に活かした取組が求められます。

また、雇用形態の多様化や、高齢者、女性の雇用環境の厳しさ、フリーター・ニートに代表される若年者の意識変化、団塊世代の大量退職といった課題に対応した雇用対策と就業環境の充実を図る必要があります。

施策の方向

1 地場産業の振興

地場産業については、環境変化に柔軟に対応しながら地域経済の活性化に寄与するために、地場産業を構成する地元の企業における高付加価値の独自商品開発、あるいは、新たな市場の開拓による自立的経営の確立について支援します。特に、温泉や茶を活かした新たな産業として、地域ブランド化を目指した食品・化成品等の研究開発を促進し、更なる販路拡大を図り、相乗効果のある地場産業の振興を図ります。

2 企業立地基盤の整備（重点プロジェクト関連）

企業立地促進法による産業集積区域として産業集積に相応しい企業の誘致を推進するため、空港や高速交通機能とのアクセス等交通利便性や水利、地盤地質などの優位性の高い工業用地を確保する取組を実施します。

3 空港や高速交通機能を活かした基盤整備（重点プロジェクト関連）

富士山静岡空港の開港を重要な機会としてとらえ、その周辺を地域産業や本市発展のための広域的な交流・連携を促進する機能を持った、新たな都市的土地利用が可能な区域として整備を進めます。

また、新東名高速道路（仮称）金谷インターチェンジ周辺にあっては、農業的土地利用との調整による都市基盤の整備を行い、民間活力の活用も踏まえた基盤整備を進めます。

なお、都市計画道路中河・南原線に接続する「（仮称）大井川新橋」の開通による新たな企業の進出も考えられるため、有利な立地条件を活かした工業用地の確保などの取組を進めます。

4 雇用の創出

雇用の安定のため、ハローワーク、商工会議所、商工会、さらには市内企業などとの共同連携により、相談体制の充実や就労情報の相互提供等を行い、雇用対策の充実を図るとともに、内職相談、若者就労支援セミナー、再就職準備セミナー、巡回就職相談などの就労支援事業を進めます。

新規企業の立地に際しては、企業立地優遇制度などを活用し、地元採用を優先した雇用の拡大を推進します。

3 - 3 商業・サービス産業の振興

施策の目的

商業等の健全な発展を期し、一層の生産性の向上を目指します。

現状と課題

本市の商業は、消費者ニーズの多様化、小売店における後継者不足や消費生活様式の変化などの影響により、中心市街地をはじめとする商店街は低迷傾向にあり、空き店舗も増加するなど厳しい状況に置かれています。

一方、高齢化が進む中、移動手段が限られている高齢者にとっては、身近な地域の商店街が重要性を増してくると予想されます。

このような中、中心部の人口回帰を促すため、中心市街地の活性化に関する法律等の法改正が実施され、今後は、空き店舗対策や商業環境の改善等のソフト事業を実施することにより、にぎわいのある商店街づくりを推進する必要があります。

また、商業を中心とした整備の方向だけでなく、多様な都市機能の集積を促進するとともに、中心市街地の利便性を強化する公共サービス機能の導入などにより、誘客を図ることも求められます。

また、富士山静岡空港の開港による波及効果が市内各地区において期待できることから、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりを進める中で、誘客に結びつけた事業展開を図る必要があります。

施策の方向

1 商店街のにぎわいづくり

商店街の空き店舗活用や、商店街に不足する業種の新たな誘致など、熱意とやる気のある団体等に対して支援することにより、商店街のにぎわいづくりを促進します。

2 歩いて楽しい商業基盤施設の整備

消費者の利便性の向上と回遊性を高めるため、商店街の商業集積の機能を高める施設や休憩施設等の商業基盤整備を進めます。

3 新たな市街地空間の形成

にぎわいがあり、魅力ある商店街づくりを推進するため、地元商店主と商工会議所・商工会など関係機関との連携を強化し、魅力ある個店づくりや情報発信などによって競争力を高め、新たな市街地空間の形成を図ります。

4 中心市街地の活性化（重点プロジェクト関連）

中心市街地の活性化を促進するため、従来から位置付けされている核となる商業拠点施設については、民間活力による再開発等により土地の高度利用が推進される中で、公共サービス機能の導入を含めた商業機能の充実を検討します。また、商業・業務・サービス機能の集積を積極的に誘導する中で、市民、商業者、まちづくり関係者間の合意形成を図り、利便性の高い施設整備等を行うことにより、高齢化社会にも対応した活力あるまちづくりを目指します。

5 大井川右岸地域における商業系・業務系拠点づくり

大井川右岸地域にあっては、都市計画道路中河・南原線に接続する「(仮称)大井川新橋」の開通により新たな都市的発展が期待できるため、東名高速道路吉田インターチェンジ周辺は、道路網の利便性から空港を活用した商業系・業務系の新たな拠点づくりを進めます。

なお、従前からの商業施設については、地域の特性を活かした個性的で魅力ある商店街づくりへの展開を進めます。

6 金谷駅及び六合駅周辺における商店街づくり

金谷駅及び六合駅周辺は、気軽に買い物ができる雰囲気づくりと、地域に根ざした商店街づくりを目指します。また、恵まれた交通条件を活かした地元で愛される安全・安心な環境づくりと、それぞれの地域の特性を活かした

地域密着型の商店街づくりを進めます。

協働のまちづくり

商業の活性化を図るため、個人店、大型店、チェーン店など商業活動を展開する事業者の相互協力に加え、消費者団体、市民活動団体、商工会議所、商工会、行政など連携を深め、協働によるまちづくりの取組を進めます。

3 - 4 観光の振興

施策の目的

自然、景観、歴史、文化などの魅力を活かした観光資源をネットワーク化し、国内外からの観光交流人口の増加による市の活性化を目指します。

現状と課題

本市は、旧東海道の宿場町として栄え、島田大祭、島田鬮まつり、金谷茶まつりなど伝統芸能や伝統行事が数多くあります。

また、川根温泉は湯量、泉質ともに全国的にも有数の温泉で年間約40万人の利用者があり、さらに平成21年4月には田代の郷温泉の供用を開始します。

さらに、国内有数の規模を誇る茶園の美しい景観、市内の建物や大井川鐵道のSLなどを利用して、映画、ドラマ、旅番組の撮影が頻繁に行われており、市のPRを行う上で大きな役割を担っています。

こうした中で、本市においては、観光客のほとんどが日帰り客であることなど滞在性、回遊性に欠け、これらの観光資源を十分に活かしているとはいえない状況にあります。

このため、富士山静岡空港の開港を契機として、本市が有する個々の観光資源を磨き上げるとともに、それぞれのネットワーク化や地場産品の活用、観光宿泊施設の整備などにより、市民、団体、事業者と連携して魅力ある観光地づくりを進める必要があります。

施策の方向

1 観光を支える人材の育成（重点プロジェクト関連）

国内外から訪れる観光客に最善のおもてなしや商品を提供するため、観光協会を中心とし、観光を支える「ボランティアガイドの会」や「おもてなし人クラブ」など市内の観光資源を熟知したリーダー的な人材の育成と観光ボランティア活動の支援に努めます。

2 ロケ地島田の体制づくりの推進（重点プロジェクト関連）

映画・ドラマなどの撮影協力は、島田を全国に発信することができ、観光振興や地域の活性化に大きな効果があるため、ロケーション誘致やフィルムコミッションに取り組む団体に対する支援と住民の協力体制づくりを推進します。

3 観光拠点の整備

本市の茶（島田茶、金谷茶、川根茶）を広く紹介し、茶園の美しい景観を観光資源として活用し、茶所を表現する拠点施設であるお茶の郷の充実とその周辺整備に努めます。

また、川根温泉、田代の郷温泉それぞれの特色（湯量、泉質）を活かした温泉利活用の中で、川根温泉は滞在型観光施設、田代の郷温泉は日帰り型健康増進施設としての整備を進めます。

4 観光情報の発信（重点プロジェクト関連）

本市の魅力を発信するためには、まず市民に観光情報を発信し、市民が自信をもって島田に訪れる人に紹介できる「人が人を呼ぶ」ネットワークづくりを推進します。

また、各種メディアを利用し、常に新しい魅力的な情報を国内外に向け積極的に発信します。

5 新たな観光資源の発掘（重点プロジェクト関連）

近年、人々の価値観が経済優先から個人の生活や心の豊かさ・癒しへと移ってきている中、都会にない本市の特性を活かした自然・歴史・文化の体験と住民と交流できるフットパス（自然の中などを散策できるように整備された遊歩道）などの新たな観光資源を発掘します。

また、大井川鐵道を利用した奥大井との連携や、川根地域の島田市山村都市交流センターささまと川根温泉などの宿泊施設を活用し、恵まれた自然資源を活かした付加価値の高い滞在・通年型観光を推進し、様々な観光ニーズ

に応じることのできる、新たな観光ルートの提案や既存観光ルートのさらなる充実を図ります。

6 広域連携型観光の振興

富士山静岡空港を核とした周辺市町との広域的な連携を図り、国内外から誘客できる魅力ある地域づくりを図ります。

協働によるまちづくり

本市には伝統芸能や行事（島田大祭・金谷茶まつり・笹間神楽など）が数多くあり、多くの市民が継承しています。これらの魅力的観光資源を活かし、市民と行政が一体となった協働による「島田らしい」観光振興を推進します。